

【理事長略歴】

氏名：鈴木 秀雄 (Hideo Suzuki, Ph.D.)

学 歴

- ・米国フロリダ州立大学大学院 教育学研究科博士課程 余暇教育学・体育学専攻 (学術博士, Ph.D.) 1977 年
学位 A Study of Perception of Leisure and the Degree of Satisfaction in Personal
Leisure of Selected Faculty and Students

職 歴

- ・関東学院大学専任講師 (1979 年～)、同助教授 (1981 年～)、同教授 (1986 年～) 同名誉教授 (2016 年～)
- ・社会福祉法人磯子コスモス福祉会理事長 (法人設立時から理事を務め平成 29 年 1 月 4 日より理事長)

研究・教育活動概要

研究・教育活動は、余暇学、体育学、スポーツ学、野外活動、救急法、蘇生術、幼児安全法、溺れている人を助ける水上安全法、ライフデザイン、身体運動論、健康福祉論の指導もしている。現在の中心的研究課題は余暇活動と積極的健康に関する領域で、多くの機関で、セラエクサ®「生活習慣病予防運動・要介護予防運動®」指導者の養成講習会も含め、多岐にわたる指導者養成・研究・教育活動に関わっている。

所属学会

- ・日本学術会議登録団体 日本レジャー・レクリエーション学会 (JSLRS) [会長職は 2006 年～ 2016 年]
- ・アメリカ保健・体育・レクリエーション・ダンス学会連合 (AAHPERD) 終身会員
- ・アメリカレジャー・レクリエーション学会 (ALRA) 終身会員
- ・全米スポーツ・体育学会 (NASPE) 終身会員 など

社会活動・資格等

- ・日本赤十字社救急法指導員；日本赤十字社水上安全法指導員；日本赤十字社幼児安全法指導員 (1965 年～現在)
- ・日本赤十字社神奈川県支部名誉指導員 (2016 年～現在)
- ・(公財) 日本自然保護協会 (NACS-J) 自然観察指導員 (No.5829) (1985 年～現在)
- ・(公財) 日本レクリエーション協会 (NRAJ) 評議員及びレク・コーディネーター、福祉レク・ワーカー
- ・(公社) 日本キャンプ協会 (NCAJ) 終身会員及び同協会キャンプディレクター 1 級 (D1)
- ・横浜市レクリエーション連合副会長 (2009 年～現在)
- ・NPO 法人 ライフサポート機構 (LiSO) 理事長 (2007 年～現在)
- ・(公財) 日本スポーツクラブ協会 (JSCA) 理事 (1985 年～ 2018 年 - 現在は顧問)
- ・NPO 法人 神奈川県野外活動協会 (ONRAA-K) 理事長 (2002 年～現在)
- ・神奈川県キャンプ協会 (PACK) 理事長 (1992 年～現在)
- ・小田原市スポーツ推進審議会 副会長 (1995 年～現在)
- ・(公財) 日本講道館柔道四段 (1971 年)
- ・神奈川県オリンピック・パラリンピック担当局「かながわパラスポーツ」普及検討会座長 (2015 年～現在)
- ・文部科学省科学研究費選考委員 (2004～2005 年；2007～2008 年)
- ・独立行政法人大学評価・学位授与機構国立大学教育研究評価委員会専門委員 (2016 年 1 月～ 2017 年 3 月)
- ・NPO 法人 日本セラエクサ協会 (JATE) 理事長 (2018 年～現在)
- ・アウトドア活動・マリン & ファミリースポーツ普及実行委員会 実行委員長 (2003 年～現在)
- ・神奈川県障がい者スポーツ協会 (KPSA) 会長 (2020 年 3 月～)

学会及び社会における活動等 (海外を中心に)

年 月	事 項
昭和 43 年 9 月 28 日	1968 年第 19 回メキシコオリンピック視察及びヨーロッパ、アメリカ 12 カ国体育事情施設視察 (米国、メキシコ等 12 カ国 昭和 43 年 10 月 25 日まで)
昭和 48 年 3 月 24 日	アメリカキャンプ協会 (ACA) 会議出席 (米国ハワイ 昭和 48 年 3 月 31 日まで)
昭和 49 年 6 月 12 日	米国フロリダ州立大学大学院留学 修士号 (M.S.) 博士号 (Ph.D.) 修得 (米国フロリダ 昭和 52 年 12 月 27 日まで)

- 昭和53年3月29日 グアム海洋活動指導 (米国グアム 昭和53年4月4日まで)
- 昭和53年12月21日 日本航空 (JAL) 依頼による、パーサー・ステイワードス大平洋 (サンフランシスコ⇄成田) 間
ダイレクトフライト疲労度調査 (米国カルフォルニア 昭和53年12月24日まで)
その後、日本航空のステイワードス採用試験官。
- 昭和56年9月27日 日本代表としてスペシャルオリンピック全国大会聖火採火団にてケネディー二世財団へ
(米国ワシントンD.C. 昭和56年10月1日まで)
- 昭和57年7月16日 日本代表としてスペシャルオリンピック世界会長会議出席
(米国ルイジアナ 昭和57年7月29日まで)
- 昭和58年1月25日 第1回国際キャンプ会議 (基調講演者エヴェレスト初登頂のエドモンド・ヒラリー氏との会談
を含む) に日本キャンプ協会代表として出席 (カナダ・トロント 昭和58年2月1日まで)
- 昭和58年6月8日 レーガン大統領夫妻の招待によるスペシャルオリンピック・ホワイトハウス
レセプションへ日本代表として出席。ペレ、ホイットニー・ヒューストン、ジョン・デンバー、
ジェーン・フォンダ氏などとの意見交流も進めた。ニューヨークマラソンで世界新記録で優勝した
アルベルト・サラザール氏とも意見交換。(米国ワシントンD.C. 昭和58年6月14日まで)
- 昭和58年7月9日 第6回国際夏季スペシャルオリンピック大会 (ISSOG) 日本選手団競技委員長及び
SOIの国際スポーツ規則委員会委員として (米国ルイジアナ 昭和58年7月21日まで)
- 昭和59年6月2日 第15回リハビリテーション世界会議 リハビリテーションインターナショナル (RI)
レジャー・レクリエーション・スポーツ委員会にパラリンピックの日本の始祖である中村 裕医師
の命を受け、常任委員として出席。RIの第7番目の委員会としてレジャー・レクリエーション・
スポーツ委員会の設置を実現。その後この委員会の動きは坂本 九氏との交流もあり、第3回の大分
国際車いすマラソン大会に医事委員と広報委員としてそれぞれ出席することとなった。
(ポルトガル リスボン 昭和59年6月11日まで)
- 昭和60年3月22日 第3回国際冬季スペシャルオリンピック大会 (IWSOG) 日本選手団派遣及び同選手団長として
(米国ユタ 昭和60年3月31日まで)
- 昭和61年4月25日 スペシャルオリンピックインターナショナル (SOI) 主催 国際スペシャルオリンピックスポーツ
規則委員会へ国際委員会委員として出席。予決戦の時間差10%ルールの実現を果たす
(米国ワシントンD.C. 昭和61年5月3日まで)
- 昭和61年8月5日 スペシャルオリンピック世界会長会議へ日本スペシャルオリンピック委員会代表 (会長代行)
として出席 (米国インディアナ 昭和61年8月13日まで)
- 昭和62年5月13日 米国赤十字社心肺蘇生法 (CPR) Basic Life Support 資格講習会参加、同資格修得
日本人初の米国指導員資格習得 (米国バージニア 昭和62年5月21日まで)
- 昭和62年5月25日 グアム海洋活動指導 (米国グアム 昭和62年5月29日まで)
- 昭和62年6月26日 米国赤十字社心肺蘇生法 (CPR) 指導員資格講習会、同資格修得 (米国オハイオ 昭和62年
7月4日まで) 及び第7回国際夏季スペシャルオリンピック大会準備委員会出席
(米国インディアナ 昭和62年7月7日まで)
- 昭和62年7月30日 第7回国際夏季スペシャルオリンピック大会 (ISSOG) 会長代行として選手団派遣および団長
として引率 (米国インディアナ 昭和62年8月10日まで)
- 昭和62年12月8日 国際スペシャルオリンピック法人 (SOI) 及びジョセフ・P. ケネディー二世財団でのスペシャル
オリンピックと国際オリンピック委員会 (IOC) との議定書に関する調査活動。その後IOCとSOIで
オリンピック名称使用の許可を得る (米国ワシントンD.C. 昭和62年12月18日まで)
- 昭和63年1月28日 ハワイにおける社会体育・レクリエーション・公園活動調査、米国赤十字社による水上安全法
システムの研究及びハワイ州スペシャルオリンピック大会へ日本役員として
(米国ハワイ 昭和63年2月2日まで)
- 昭和63年9月21日 第24回ソウルオリンピック大会での国際オリンピック委員会 (IOC) ・国際スペシャルオリン
ピック (SOI) ・VISA インターナショナル共同プロジェクトとして開催されたスペシャルオリン
ピックエキシビジョンに俳優アーノルド・シュワルツェネッガー氏と共に日本代表及び日本選手
団コーチとして出席。IOC サマランチ会長・猪谷千春氏らと選手村内にて交流 (韓国ソウル
昭和63年9月29日まで)

- 昭和63年11月13日 横浜市制100周年記念プロジェクトで、ミッキー吉野氏らと“世界ふれあいキャンペーン”スティーヴィーワンダー招待チャリティー基金寄贈プロジェクトの実施と共にアジア諸国福祉事情を国際赤十字の協力を得て、6か国を調査（タイ、ネパール、インド、シンガポール、インドネシア、マレーシア 昭和63年11月26日まで）
参考：この100周年事業として、他に、障害者レクリエーション・スポーツ施設ラポールの建設基本構想委に参画、130億円の建築費を要して平成4年に完成。その後、同施設の指定管理者選定委員会の委員長を現在も務めている
- 平成元年1月25日 ハワイにおける社会体育・レクリエーション・公園活動及び米国赤十字社の諸講習会活動の実態調査（米国ハワイ 平成元年1月31日まで）
- 平成元年3月31日 第4回国際冬季スペシャルオリンピック大会 (IWSOG) 日本選手団監督として（米国カルフォルニア、ネバダ 平成元年4月9日まで）
- 平成2年1月24日 ハワイにおける社会体育・レクリエーション・公園活動調査及びハワイ州スペシャルオリンピック冬季大会調査（米国ハワイ 平成2年1月30日まで）
- 平成3年7月18日 第8回国際夏季スペシャルオリンピック大会 (ISSOG) に日本選手団長として参加。（米国ミネソタ 平成3年7月28日まで）
- 平成7年3月14日 オーストラリア・クィーンズランド州ヌーサ (Noosa) におけるレジャー・レクリエーション活動としての Outdoor and Aquatic Activity の研究及びクィーンズランド州内の Sunshine Coast University College 新大学設立準備に伴う国際交流推進に関する調査研究（豪クィーンズランド州 平成7年3月27日まで）
- 平成8年3月8日 オーストラリア・クィーンズランド州ヌーサ (Noosa) におけるレジャー・レクリエーション活動としての Outdoor and Aquatic Activity の研究及びクィーンズランド州内の Sunshine Coast University College 新大学設立準備に伴う国際交流推進に関する調査研究及び Griffith University の School of Leisure Studies に関する調査研究継続（豪クィーンズランド州 平成8年3月27日まで）
- 平成9年3月25日 オーストラリア・ヌーサの自然を楽しむ会～市民交流～（横浜市教育委員会・横浜市レクリエーション協会主催、団長として）（豪クィーンズランド州 平成9年4月3日まで）
- 平成12年7月21日 第6回若石健康法世界大会（学術検討会世界大会）学術発表：〔発表演題〕健康の三要素の工夫を通して知る若石健康法の“本源的な捉え方”と“その方向性”（中華民国台北市 平成12年7月24日まで）
- 平成28年10月7日 韓国学術セミナー（学術討論会）基調講演：健康寿命の延伸に役立つ積極的運動の社会化と習慣化に関する余暇行動の指針（韓国ソウル 平成28年10月10日まで）



米国第40代レーガン大統領によるプレゼントプレミアでの1コマ。レーガン大統領が日本の女子スペシャルオリンピアンにメダルを授与し、スペシャルオリンピックの創設者でJ.F.ケネディー大統領の令妹ユニース・ケネディー・シュライヴァー女史は日本男子スペシャルオリンピアンに語りかけている。この式典にはスーパーマンⅢ主演のクリストファー・リーブ（写真右端）も出席。リーブ（1952年9月25日ニューヨーク生まれ）は落馬事故で頸椎損傷し、その後2004年10月10日ニューヨークで永眠。リーブの後方には、ケネディー大統領が創設した平和部隊（The Peace Corps）の初代ディレクターを勤めたユニースの夫君であるサージャント・シュライヴァー氏の顔も見える。<鈴木 秀雄（理事長）撮影（於：ホワイトハウス・サウスローンにて）>



第 24 回ソウルオリンピック大会での国際オリンピック委員会 (IOC)・国際スペシャルオリンピック (SOI)・VISA インターナショナル共同プロジェクトとして開催されたスペシャルオリンピックエキシビジョンにアーノルドシュワルツネッガー氏と共に日本代表及び日本選手団コーチとして出席。<韓国ソウル 1988 年 9 月 21 日～9 月 29 日>



第 3 回大分国際車いすマラソン大会 (1983 年) に日本のパラリンピックの始祖 中村裕医師の命を受けメディカルオブザーバーとして参画した折、ボランティアとして参加された坂本九さんと開会式会場で再会 [坂本九さんは、うつみ宮土理さんと共に鈴木秀雄の結婚式 (1970 年 8 月 24 日) の司会者]。



左がエドモンド・ヒラリー氏 (世界最高峰エベレストの初登頂者。1953 年の第 9 次英国隊に参加)。右はゼキ・オコーノ氏 (カナダヒラリー卿財団会長及びカナダスペシャルオリンピック会長)<カナダ・トロントで 1983 年開催の第 1 回国際キャンプ会議にて>オコーノ氏とは 1987 年の第 7 回国際夏期スペシャルオリンピック大会 (於：ノートルダム大学；インディアナ州) で再会した。



日本におけるパラリンピックの始祖で、1964年東京で開催されたパラリンピックの日本選手団長も努めた中村 裕医師（1927.3.30 - 1984.7.23）からの依頼を受け、1984年4月19日から4月22日まで愛知県蒲郡市で開催された“RESPO 国際会議”において、「障害を有する人への真のレジャー・レクリエーション・スポーツ」の基調講演を行った。その折、国際リハビリテーション（RI）事務局長であるノーマン・アクトン氏（写真中央）も来日され、中村 裕医師（右）と共に第15回リハビリテーション世界会議（1984年6月 於：ポルトガル）でのレジャー・レクリエーション・スポーツ委員会の創設に向けての会談も行った。中村 裕医師はこの会談の3ヶ月後に57歳の若さで昇天された。



RESPO 国際会議にゲストスピーカーとして参画し、「基調講演」の後に開催されたレセプション（1984年4月19日）において、常陸宮正仁親王殿下と太宰博邦（厚生事務次官）氏との懇談。太宰博邦氏は、日本のパラリンピックの始祖である中村 裕医師を全面的に支え、1964年に開催された東京パラリンピックを成功裡に導いた最大の功労者でもある。



米国インディアナ州サウスベンドで1987年7月30日から8月10日まで開催された第7回国際夏季スペシャルオリンピック大会（ISSOG）に、日本の会長代行・選手団長として参加した折の国際スペシャルオリンピック（SOI）会長とのプレジデントフォトセッション（於：米国 ノートルダム大学）。

写真右が、SOI会長のジョン・F. ケネディー大統領令妹のユニース・ケネディー・シュライバー女史
写真左が、夫君のサージャント・シュライバー氏。同氏はケネディー大統領が創設した平和部隊（Peace Corps）の初代ディレクターやフランス大使なども務めている。

現在のSOI会長は、夫妻の御息息であるチモシー・ベリー・シュライバー氏が1996年から引き継いでいる。

なお、夫妻の御息女の MARIA・シュライバーさんは、アーノルド・シュワルツェネッガー氏の妻。